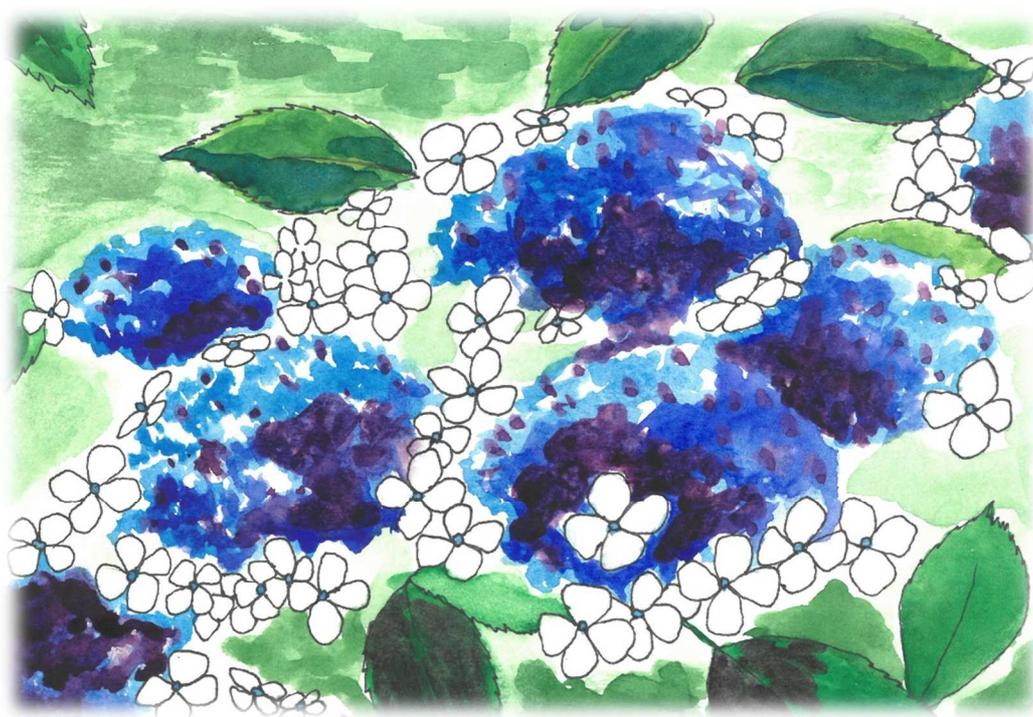


SSKO 社会福祉法人 はらからの家福祉会

われら同胞

NO.46



☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 2 p 巻頭言
1年間の振り返り&今年度の抱負
- 3 p 地域生活支援センター プラッツ
- 4 p グループホーム ピア国分寺
- 5 p さつき共同作業所
- 6 p ネットワーク推進部
- 7 p 社会福祉法人はらからの家福祉会組織図
新職員紹介
- 8 p 賛助会コーナー

施策の方向感への懸念

はらからの家福祉社会理事／総合施設長 伊澤雄一

年度が改まり数カ月が経過して
います。当はらからの家福祉社会の各
活動とも年度を境に、新たな出会い
や環境の変化のもと、日々緊張感を
湛えながら推移しています。

今春、地域における支援活動を進
めるうえで大事な障害福祉関係の
制度面での動きがありました。超少
子高齢社会の本格的な到来を前に、
社会保障全体の改変の進捗に沿う
形で障害者福祉の改革が多様な議
論のもと推移しており、昨年末に国
による特別な検討会を経て、社会保
障審議会の審議でまとめられ、年明
けの通常国会に法案として上程さ
れた『障害者総合支援法改正』がま
さにそれなのです。

を支えるため、定期的な巡回訪問や
随時対応をする新サービス 自立生
活援助」を設け、これにより、空い
た施設やグループホームで高齢や
重度の人を受け入れることや、新サ
ービスとして 就労定着支援」も創
設し、一般企業に雇用された障害者
のストレス対応や金銭管理などの
生活課題への対応を一定期間支援
することとしており、施策の展開が
期待できるとの見方もあります。本
法は去る5月12日に与党ならびに
民進党などの賛成多数により衆議
員本会議において可決されました。

この改正の国会審議の過程で大
きな問題として取り上げられたの
が、5月の衆院厚生労働委員会での
参考人質疑に関することでした。民
進党が出席を要請したALS(筋萎
縮性側索硬化症)患者の出席を与党
側が反対したのです。その理由は人
工呼吸器を着け、声を出せない当事
者の口元をヘルパーが読み取る必
要があり、時間がかかるというのが
その理由でしたが、他の審議事案を

めぐると野党の駆け引きに利用さ
れた節もあります。

このことについて即座に、障害
者差別を是正し社会参加を促進す
る国会の厚生労働委員会が、障害を
理由に参考人出席を拒んだのは、わ
が国の深刻な状況を映している」と
いう論説による批判が各方面より
強く寄せられました。そして後の参
院での参考人質疑が、批判を回避す
るよう実施されたのでした。

しかし一昨年の『障害者権利条約
批准』そして合理的配慮を強調し
た『障害者差別解消法』が本年4月
から施行された国における出来事
ゆえに衝撃は大きいものです。

こうした審議過程の失態は法改
正への姿勢を如実に物語ってもお
り、数年前に、障害者自立支援法(当
時)の違憲性を問うた裁判の結果生
み出された『基本合意』や、その後
の障害当事者の多くが参画し内閣
府に設置された、障がい者制度改革
推進会議が2011年8月にまとめた
『骨格提言』をまったく言ってい

いほど反映していない事実もあり
ます。

また先に触れた改正内容の『自立
生活援助』は、一方で軽度の人たち
のグループホームからの排除に繋
がりかねず、さらに『就労定着』は
わずかな好転要素でしかないとい
う批評もあります。

つまりは当事者の声(求め)や関
係者の現場感覚の受け止めは弱く、
今回の法改定の真の目的も『財政の
効率化』であり、障害者の自立支援
というよりは公的責任の後退と放
棄ということが鮮明に表れている
と捉えざるをえません。

憂慮すべき状況が作られつつあり、こ
のような状況への問いかけ、投げかけ
がより一層大事と思う次第です。



平成27年度地域生活支援センタープラッツ事業報告

年間利用者状況	① 相談支援延べ利用者数 9,652名 1,802名↓ 訪問 302名 134名↓ ケースカンファレンス 200名 8名↓ 来所 867名 496名↓ 関係機関連絡 1,929名 276名↓ 同行 144名 13名↓ 電話 5,788名 1,294名↓ 電子メール 2名 1名↓ その他 420名 263名↑ ② 来所利用者数 4,469名（*平均来所者数 16.93 / 日）0.29名↓ ③ プログラム 参加者数1,169名 45名↑ 開催数153回 8回↓ ④ 宅配弁当手配 379食 14食↓ 実人数9名 ⑤ ボランティア 参加プログラム70回 ボラ実人数9名 ⑥ その他 外部会議40回、出向・出講123回、家族会支援等3回、 精神保健福祉ボラ講座6回、地域イベント2回
利用者の属性	○ 利用者総数 368名 3名↑ 1. 地活登録利用メンバー 118名 7名↓ 男性62名 6名↓、女性56名 1名↓、新規登録10名 2名↓、更新105名 8名↓、 国分寺市内98名 2名↓、市外20名 5名↓、平均年齢50.9歳 0.2歳↑ 2. 指定相談支援事業利用者 97名 3. 障害者地域移行促進事業 個別支援利用者55名、協力病院10ヶ所、 退院者11名、支援終了者14名
職員体制	伊澤（管理者） 山内（所長） 奥澤 藤井 尹 松崎～12月末 角谷12月頭～ 保坂（非常勤職員）
開館状況	○ 開館日数 264日（休館日：水曜日、第2第4第5日曜日、祝日） ○ 開館時間 10:00～19:00

補足

5事業展開は例年通り。大まかな状況は上記内容。以下は補足となる。

通所利用マナー向上を企図しての、2度のゲスト交流会、喫煙所設備の変更、各個別面談での再確認等。ニュースレターとホームページによる情報発信のさらなる拡充。市内各種事業所連絡会や研修会勉強会への能動的参加。職員2名の退職に伴う多様な変更への対応。通所利用者数低下および交流室狭小問題沈黙化。地域移行促進事業担当者らとプラッツ業担当者らとの連携協働の困難さ表面化。

平成28年度活動展開にあたり

過年度と同じく5事業を展開する、平成28年度プラッツのポイントは以下となる。

・職員体制（伊澤 管理者）、奥澤（所長）、尹、藤井、角谷、猪鼻、保坂（非常勤）

・継続実施（従来通りの開館ルール（上記）。交流室提供。生活支援プログラム。利用マナー向上。社会的支援体制整備の促進や連携。各種情報発信。精神保健福祉を中心とした生活相談。計画相談支援による精神障害者ケアマネジメント。長期入院者への直接的な地域移行支援と地域定着支援。

・重点向上項目（ピア自助活動促進。業務効率。地域事業者へ「繋ぐ」退院支援。基幹相談支援センターとの連携。LPチーム力。病院の体制づくり促進。地域移行活動の法人内外での認知度。

平成27年度。ピア国分寺事業報告

グループホーム・ショートステイ

27年度のグループホームは部屋を1室増やし、全部で26室となりました。

当法人でも取り組んでいる地域移行促進事業など様々な形で退院促進の事業も進んでいる中、退院先の1つとして有効に機能できればと思っております。一方で空室期間（入居準備期間）

が長くなってしまう部屋もありました。理由は様々あるのですが、入居までの手続きに時間が長くなかかってしまったことも理由の1つかと思われま

す。今年度は手続きを効率化することで少しでも早く入居して頂けるようにしていきたいと考えています。

各ユニットの入退去者は以下の通りです。ピア国分寺（定員7名）入居者4名、退去者4名。国分寺コーポ（定員7名）入居者1名、退去者1名。グリーンハイツ（定員6名）入居者3名、退去者3名。メビウス（定員6名）入

居者1名、退去者0名。合計入居者9名、退去者8名。

入退去者の数としては例年と比べても特別多かったということはありませんが、前述の空室多かったことや職員の異動等もあり何かとバタバタとした1年でした。

ピア国分寺が東京都から受託している「グループホーム活用型ショートステイ事業」（以下ショートステイ）については、18名（前年度23名）の方が延べ249日（前年度257日）利用されています。延べ日数は昨年度とほぼ変わらず、このあたりが上限の数字かと思われま

す。ショートステイを使った後に退院し単身でのアパート生活を始められた方もいらっしやいます。自分たちの活動が新たな生活につながったのだと

たらとても嬉しく思います。



平成28年度抱負

これまでグループホームを増設したり増室したり事業の統合をしたりとしてきました。今年度はそれらをしっかり固めて、ショートステイ事業も含め質の充実を図っていききたいと思えます。入居準備の効率化はもちろん内外の情報共有や連携への意識も高めていければと思えます。

平成27年度さつき共同作業所事業報告

就労継続支援B型／自立訓練（生活訓練）

◆ 施設整備「東京都共同募金会の助成を受け、トイレの改修増設工事を実施したことで、休憩時間の確保も出来プログラムも支障なく進めることが出来ています。また、男性用小便器が出来た事で便座汚れが軽減し衛生的な環境が確保できています。

◆ 平成28年3月から常勤職員1名が増員となりましたが、平成28年4月から非常勤職員2名の退職により、プログラムや作業同行の職員が不足するため求人を持続しています。

◆ 職員が個別目標をたてた事で、作業所の理念を作成することが出来ました。また、各々が職務に責任を持ち、働きやすい職場を全員で目指す姿勢が出来てきています。

個別に受講した研修を整理したことで、各々必要な研修が明確になり、不足している研修の参加を

意識しながら、必要に応じた勉強会や研修等にも参加しています。

◆ 就労継続B「作業の確保をしましたが、利用者（作業参加者）の増員に伴い平均支払工賃額が減り、目標工賃達成が厳しくなってきました。しかし、各々の目的やペースにあわせて取り組める場の提供は継続しています。

就労準備グループを活用し、2名の方が就労へと繋がりました。

◆ 生活訓練「利用者とプログラム計画のための時間を設け、必要なプログラムを計画に則り実施したことで参加者が増えました。訪問支援は1名をヘルパー支援に繋げ1名は継続中ですが、残念ながら2名の方が亡くなりました。ホームページや機関誌等でプログラムや作業の様子を掲載したことで病院等関係機関の検索が増え利用者増につながっています。

平成28年度 事業計画

◆ 施設整備「職員増に伴う事務室の狭小課題の解決と相談室、静養室の確保を兼ねた部屋を増室します。個人情報の管理や確保を兼ねながらも緊急対応に備え、隣室と容易に往来出来るドアの改修工事を行います。

◆ ボランティアを含め職員を増員し、支援の充実を図ります。

◆ 職員の個別目標と研修勉強会等の振り返りや見直しを行い、新たな目標（個人・作業所・法人）をたて、共通理解のもと働きやすい職場を目指します。

◆ 就労継続B「最低工賃額を意識し室内作業の時給300円を320円に上げ、参加意欲の向上を目指しながら、商品の質の向上も目指します。今年度も就労につながるため、関係機関との情報共有や勉強会等プログラムを積極的に実施します。

◆ 生活訓練「ニーズに副ったプログラムを計画し、必要に応じて講師を招きながら魅力的なプログラムを実施します。訪問支援は情報発信を続けながら、各々のニ

ズに副って充実した社会生活の安定を支援します。



平成27年度ネットワーク推進事業部事業報告



ネットワーク推進事業が始まり3年目も又沢山の方々のお陰で終了することができました。事業目的は、地域での医療と保健・福祉の効果的な連携推進、具体的には① 地域社会でその人らしい生活を送る為の医療サービスを提供する」という理念をもつ国分寺すずかけ心療クリニックにおける業務② 地域連携の1つである「地域ネットワーク多摩」壱川・国立・府中・国分寺の福祉・保健・医療連携）への積極的参加③ 国分寺あゆみ会への協力と協働等、です。

ネットワーキング推進事業が始まり3年目も又沢山の方々のお陰で終了することができました。事業目的は、地域での医療と保健・福祉の効果的な連携推進、具体的には① 地域社会でその人らしい生活を送る為の医療サービスを提供する」という理念をもつ国分寺すずかけ心療クリニックにおける業務② 地域連携の1つである「地域ネットワーク多摩」壱川・国立・府中・国分寺の福祉・保健・医療連携）への積極的参加③ 国分寺あゆみ会への協力と協働等、です。

①について 医療の場において福祉的視点を持った多職種チームで、行政・医療・保健・福祉の様々な方の力をできるだけ頂き、地域で生きる生活者としての患者さんやご家族とともに何ができるかを考え、デイケア・訪問看護・外来相談等にあららせて頂きました。

②について 熊谷晋一郎氏、綾屋紗月氏を迎え、ちたま精神保健医療福祉フォーラムを開

催したり、日々お互いを顔の見える関係として仕事をさせて頂いたりしました。

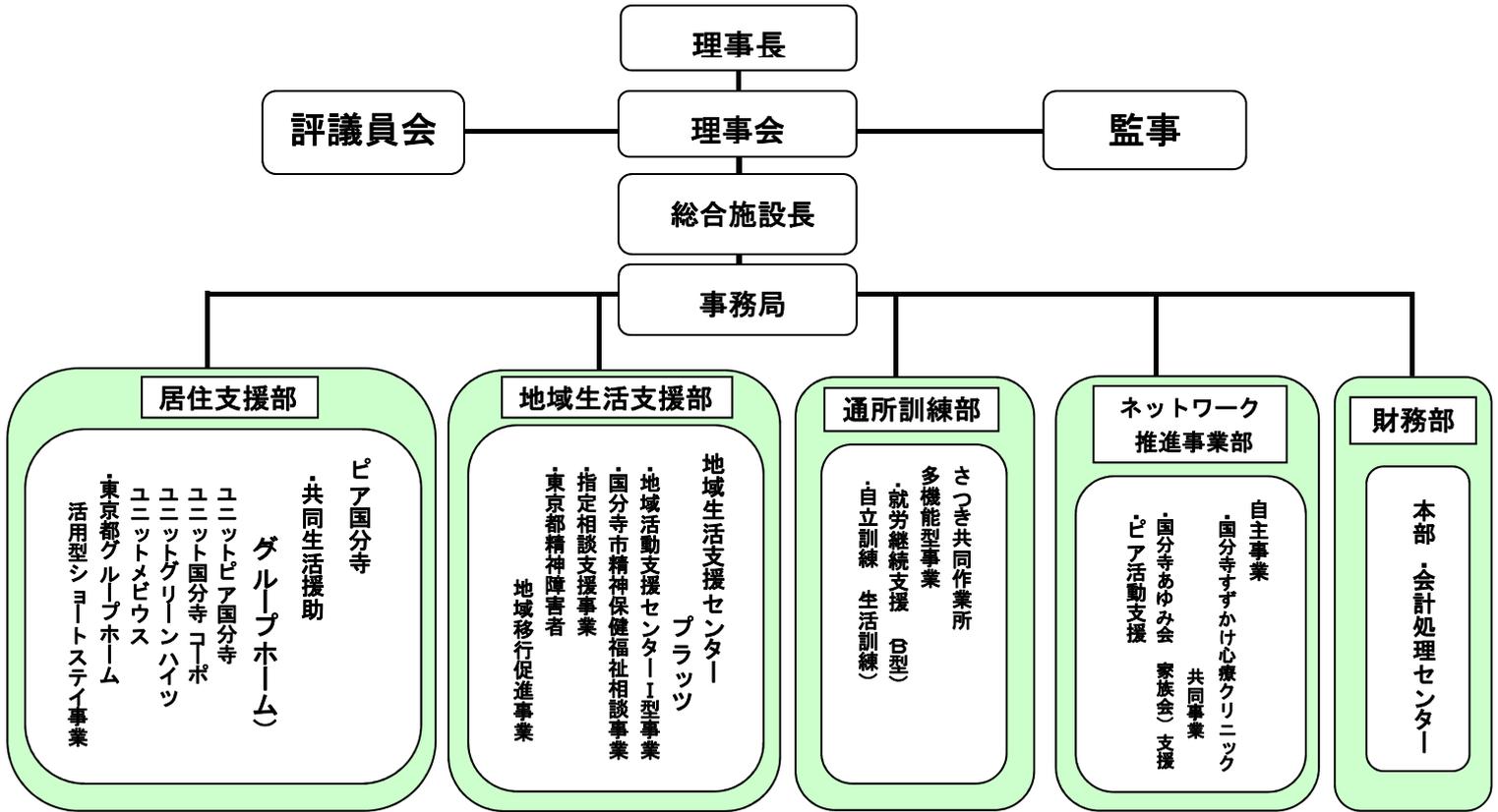
③について 昨年度も引き続き学芸大の福井里江先生の協力を頂き、はらからの各部門も交替で参加し、家族相談会を開催することができました。又あゆみハウスにおける水曜家族相談会に、はらからの各部門と国分寺すずかけ心療クリニックから相談員として協力させて頂きました。そして何よりも会長交代という大きな転換期を迎えたあゆみ会で、新会長、新副会長をはじめ役員の方々、多くの時間を過ごさせて頂きました。その経過では、元会長須長氏、野々瀬氏の力を多く借り、学ばせて頂きました。

究センター病院のぴあサポートと共に精神保健福祉講座もやらせて頂きました。UFEとは、Utenti Familiari Esperti の略語。精神疾患の患者さんやその家族が、専門家として医療・福祉・居住・就労などの支援を行う取組を指し、この取組は fareassieme（一緒にやろう・みんなでやろう）」という運動から生まれました。振り返ると多くの立場の方々と共に過ごさせて頂き、大変充実した1年でした。

平成28年度抱負

今までの出会い、新たな出会いを大切に、同じ釜の飯を食う姿勢で、日常業務に丁寧に取り組んでいけたらと思います。又悪戦苦闘しながらも協力し合っている、新たなスタートを切ったあゆみ会の家族の方々のそばに居させてもらい、同じ方向を向いて一緒に苦勞ができたらと思っております。今後ともご協力ご指導をよろしくお願い致します。

社会福祉法人はらからの家福社会 組織図（平成28年度）



新職員紹介



黒木 ぐろぎ（雅之、しし座、O型、宮崎県出身です。上京以来ずっと小金井に住んでおり、以前は病院や知的障害者の施設に勤めていました。趣味は水泳、美術館巡り、園芸など、広く浅くブランクもあります。最近では、実家の庭に様々な果物を植えるのに凝っており、帰省してはノコギリで剪定したり害虫と戯れたり、リフレッシュして戻ってきます。

国分寺はすぐ隣町で、学生時代から慣れ親しんできました。当時からのお店や街並みが今も残っており、特に坂下の不動橋から川沿いに並ぶ民家の佇まいは風情があり、とても気に入っています。私が見ての通り、静かでシャイな人間なので、街角などでも見かけたら、お気軽に声をかけていただけると嬉しいですよ。さつきの利用者様、ご家族様、地域のために尽力していきたいと思えますので、今後ともよろしくお願いいたします。

さつき共同作業所 黒木 雅之

5月より地域生活支援センタープラッツの職員になりました猪鼻章人です。先の3月に大学を卒業したばかりです。学生時代はひたすらサークル活動に没頭し、バスケットボールを行っていましたため、体力等には自信があり頼られる存在になれると思う限りです。

私が福祉の道を目指したきっかけは中学校2年生の終わり間近で、PSWを目指したのは大学入学後でした。当初は精神科病院で退院支援がしたいと考えていましたが、資格過程の実習や卒業論文を通して、次第に地域で皆様が安心して希望する生活を営むことができる場を創っていききたいという想いが強くなっていきました。そして、はらからの家福社会とのご縁もあり、この度プラッツの職員となりました。

まだまだ沢山わからないことがありますが、ご迷惑をおかけすると思いますが、私自身さらに学びを深め日々精進していきたいと思えますので、どうぞよろしくお願い致します。

地域生活支援センタープラッツ 猪鼻 章人

はらからの家福社会賛助会コーナー

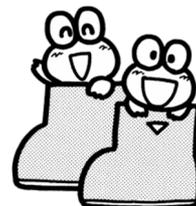
<平成27年度11月から3月の間に賛助会費をご納入頂いた皆様（順不同 敬称略）>

井上 洋子 上原 愛子 岡本 公子 加藤 初江 金子 鮎子 川崎 嘉代 北村 道子 小林 輝雄
 杉山 健治 鈴木 汎子 須長 靖夫 高見 法孝 丹野 章子 塚田 弥生 藤田 英親 三浦 香織
 山田 正則 渡辺 澄子 加藤 護 伊澤 美枝子 伊藤 順一郎 倉田 良志子 高橋 千恵子
 田邊 小夜子 中田 有智子 野々瀬 悟子 山口 多希代 オザキエンタープライズ（株）
 白木建設株式会社 浜野クリニック 浜野 徹二 三住建設株式会社
 NPO 法人多摩在宅支援センター円 匿名4名

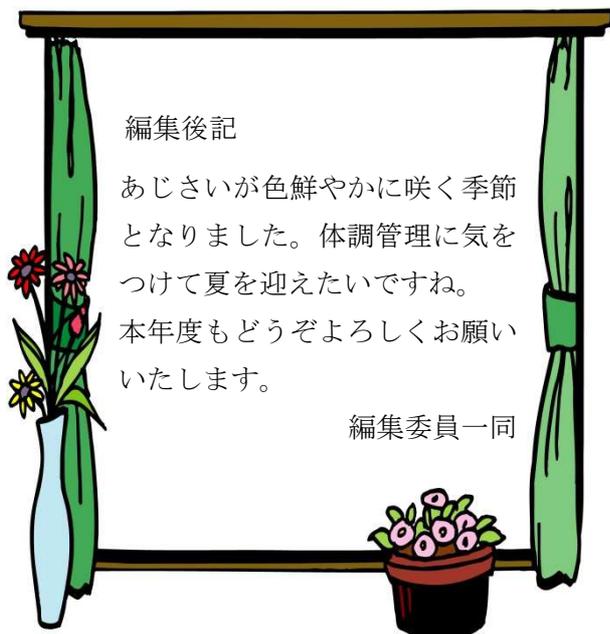
会員の皆様、本当にありがとうございました。今後ともなにとぞ宜しくお願い致します。

平成27年度はらからの家福社会賛助会決算報告 単位：円

支 出		収 入	
一般物品費	205	賛助会費収入	476,500
雑 費	22,000	(114名)	
役 務 費	0	雑収入(利息)	16
郵便手数料	16,104	その他の雑収入	15,185
法人寄附	500,000	前期繰越金	98,131
当期繰越金	51,523		
合 計	589,832	合 計	589,832



※ 郵便振替用紙を同封させていただきましたので、平成28年度賛助会費、何口でも結構です。お振込みいただくと幸いです。会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいておりますので、匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。



編集後記

あじさいが色鮮やかに咲く季節となりました。体調管理に気をつけて夏を迎えたいですね。本年度もどうぞよろしく願いいたします。

編集委員一同

はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>

【編集人】社会福祉法人はらからの家福社会
〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

TEL 042-323-5637

【発行人】障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

【定 価】 ¥120